

信念を貫き、高い目標に挑み続けたからこそ掴むことができた、第一志望校合格。
不合格の原因になるものを全て排除し、
万全の態勢で受験勉強に取り組んだ1年でした。

大阪大学
基礎工学部 合格
田中 直人さん
【龍野高校卒】
姫路北条口校OB

「君が不合格になるはずはない」と、東進の先生が背中を押してくれました。



現役はランクを下げた大学にも不合格。第二志望校にこだわって浪人を決意。

■東進には現役時代からですが、高校の合格発表の翌日に東進に入学しました。中学の時に塾に行っていたので、高校に行っても塾に行こうと思いましたが、高校の近くに、東進があったので、その校舎に決めました。志望校は関西圏でトップレベルの大学である大阪大学をイメージしていました。

高1の頃は順調に勉強ができて、数学も先取り学習していたのですが、高2の時にコロナが始まって、家での勉強のリズムが狂ってしまいました。それでも高3で勉強を挽回し、夏休みまで成績を上げて校内トップクラスになったのですが、そこで気持ちが緩んでしまい友だちと遊ぶようになり、部活もつまづかず勉強に集中できなくなっていました。また冬に腕を骨折して入院したこともあり、なかなか勉強に集中できない時期でした。

■現役時の受験はどうでしたか
志望校は大阪大学に決めていたのですが、成績としてはちょっと厳しい状況でした。共通テストを受けた結果志望校を神戸大学に変更して受験しました。受ければ神戸大学へ行こうと

思っていたのですが、本番の時に鼻血を出して教護室に行ったりして時間を口としてしまいました。それで時間が足りなくなり合格最低点に10点だけ届かず不合格になってしまいました。

その後、後期で合格した大学もあったのですが、もはやした気持ちもありました。親は進学も浪人も自由にすればよいが、浪人するのなら覚悟を決めてやりなさいと言っていました。自分としては現役の時にフルパワーで頑張れない実感があったので、もう少し頑張ってみようと思いました。

■東進の高卒コースを選んだ理由を教えてください
東進で浪人することを決めたのは、東進で3年間勉強してきたので、学習のシステムをよくわかっていました。自分が不合格だったのは、東進が原因ではなく、自分自身に理由があることを自覚していたので、勉強の環境を変える必要はないと思いました。

浪人の時に担当してもらったのは、梅林先生と佐伯先生でした。先生との面談で心に残っているのは、現役の時に合格して大学生になれる権利があるのに、それを放棄して浪人するのだから、生半可な気持ちで勉強してはいけない、と言われたことです。それで1年間の覚悟ができたと思います。

次試験重視なので、2次で挽回できるのです。1年間頑張ったので、2次試験本番は「さあ、かかってこい」という気持ちでした。結果的には物理がとてよくできたと思います。今年のお阪大は物理が難しかったのですが、自分にとっては「そんなに難しかったかな？」という感じです。苑田先生の授業のおかげで高得点を取ることが出来ました。終わった後はやり切った感じが、あとは受かってくれと願うばかりでした。結果発表は自宅です。合格が分かった時はすごくうれしかったです。

■高卒で勉強する人のアドバイスをお願いします
自分の力だけで浪人するのはありません。家族の支えがあつて浪人できるのだから、中途半端なことをしてはいけないと思ってください。僕がしたように、1年後に落ちる言い訳を考えると、スマホや財布など言い訳になるものを全て封印してしましましょう。不合格の原因になるものを全て遠ざける。全部つぶして勉強したら、落ちるわけはありません。頑張ってください。

■2年目の受験はどうでしたか
前期で大阪大学を受験しました。共通テストの結果は少し悪かったのですが、自分が勝負するのは2次試験だと思っていました。大阪大学の基礎工学部は2



■東進の校舎の様子はどうでしたか
校舎には僕と同じように何人かの浪

東進の担任は受験のプロ。アドバイスはしっかり受け止める。

■お薦めの講座や模試はありますか
特に良かったのは、苑田先生のハイレベル物理です。それを2周以上受けて特に難しいところは何度も繰り返し受講することになり成績も伸びました。苑田先生はどれだけ難しい問題でもきちんと基礎基本から教えてくれます。高校の受験物理というより、物理学そのものを教えてくれる楽しい授業でした。おかげで大学の物理の授業でもとても役立っています。

でにやるのかを、カレンダーを見ながら担任の先生と相談して計画を立てました。インプットも現役の時とは、参考書や学校の教科書や東進の受講などバラバラでしたが、浪人の時はとにかく東進の受講でインプットして、アウトプットは東進模試を活用していました。

■1日の生活のリズムはどうでしたか
1日14時間勉強するように心がけていました。トイレに行っている時も勉強して、トイレに行くまで暗算して答えを出しています。1秒たりとも勉強してない時間を作らないようにして、食後の眠たくなりそうな時間には数学の問題を解いて眠たい時間を乗り越えました。

生活習慣を完璧に整えたら、昼間でも眠くなりません。夜は24時に寝て、朝は7時に起きる。それを完璧に実行していたら、1か月ぐらいすると、昼間は眠くならないし、24時には一気に勉強する場所になります。東進は勉強する場所であり、家は身体を整える場所というのを、身体に叩き込んで体調を整えていました。

また、浪人は高校生のように定期テストがなくて時間に余裕があるので、受ける模試も自分が目指す大学だけでなく、東大、京大、神大、早慶上理などできるだけ多く受験しました。担任の先生のアドバイスで目標とする大学よりレベルの高い大学の模試も受けるようにしました。その結果、自分の天井が高くなったというか、阪大の模試が簡単に感じられるようになりました。アウトプットの方法として、とても良かったと思います。

■スランプの時期はありましたか
はつきりスランプと言えるほどではないですが、模試で失敗して大きく点数を下げてしまっただけがありました。そのとき担任の先生から、間違えた部分は自分の弱点なので、それだけでなくあるということ、これから得点源に変えられるチャンスだと教えられました。逆転の発想ですね。同じ間違いを一度としないように心がけて勉強し、ずっと伸びないということは、成績は伸びていくはずだと自分に言い聞かせました。

そして模試でいい結果が出た時も、それに満足しないようにしました。現役の時に学年1位を取って慢心した時を思い出し、不正解の部分に意識を向けて、担任の先生との反省会で、なぜ出来なかったか、なぜ間違えたかを分析し、学習計画を練り直しました。

■東進の校舎の様子はどうでしたか
校舎には僕と同じように何人かの浪

担任の
佐伯先生
(姫路北条口校)の
コメント

最初に田中君と面談した時、勉強面において「計画は立てるが守れない(継続できない)ことが多い」や「科目により勉強量・勉強時間の差が大きい」という課題点を共有し、共に解決・改善に向けてサポートしていくことから始めました。

現役時の受験では、国公立大後期や共通テスト利用型の私大など複数合格してくれましたが、本人の意識の中では「まだ受験勉強をやりきった感じがなかった」という不完全燃焼の思いが強かったため、「合格大学は複数あるが、進学せずにもう1年共に勉強し、第一志望大学合格を目指そう」と本人の背中を押したことを今でも覚えています。

東進模試の受験後は、自己採点結果に基づき本人との面談を毎回実施し、「模試結果から得られた課題点(反省)は今後に向けてのプラス要素である」を合言葉とし、本人と「プラスとなった要素/見つかった課題点」を共有し、次回模試の成績向上に向けて取り組むべきことの整理や学習計画への反映を定期的に行いました。

様々な不安を抱えながら、最後まで決してあきらめず、懸命に努力を積み重ねた成果として、大阪大学合格を誇りに思います。



校舎開校の30分前から玄関で自習。全ては合格のために。

■浪人の時の勉強の進め方を教えてください
東進は8時30分から開校なので、8時に校舎の前に着き、開校するまで玄関の前で30分自習することから始めて、夜は校舎が閉まる10時まで勉強していました。勉強法は現役時とかなり変えました。現役の時は席に座ってからさあ何をやるか、受講もとりあえず受けて、担任の先生の言われるがまま講座を受けたり、何となく自分が解きたい問題を解いていました。一方、浪人の時は本当に自分にとって必要な勉強を考えながら、それをいつま